

各機関の迅速測定結果（令和5年9月19日現在）

【最新状況】（土・日・祝日公表分は原則として翌営業日に更新、下線は更新箇所）

■東京電力

詳しくは[こちら](#)（東京電力 トリチウムの迅速測定の分析結果）

【海水】

【発電所から3km以内】

9月18日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点においてトリチウム濃度は検出下限値未満（6.7～7.6ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

■環境省

詳しくは[こちら](#)（環境省ホームページ）

【海水】

9月5日～6日に福島県沿岸の9測点、宮城県沿岸の1測点、茨城県沿岸の1測点にて採取した海水試料を分析（迅速測定）した結果、すべての測点において、海水のトリチウム濃度は検出下限値未満（7～8ベクレル/リットル未満）であり、人や環境への影響がないことを確認しました。（環境省）

■水産庁

詳しくは[こちら](#)（水産庁ホームページ）

【水産物】

<9月19日公表>

9月18日朝にALPS処理水放出口の北側約4kmで採取されたヒラメ及び同放出口の南側5kmで採取されたホウボウのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満（約7.5、7.6ベクレル/kg未満）であることを確認しました。（水産庁）

■福島県

詳しくは[こちら](#)（福島県ホームページ）

【海水】

9月12日(火)採取：全9測点で検出下限値未満（3.4～4.0Bq/L未満）であり、人や環境への影響がないことを確認しました。（福島県）

<参考>

放出前の福島県沖の海水中トリチウム濃度は0.1～1ベクレル/リットル程度

WHO飲料水ガイドライン 10,000ベクレル/リットル

○本資料は、各機関・当社が実施した海域モニタリング（迅速測定）の結果を、各機関の公表内容をもとにとりまとめたものです。各機関の測定結果に関するお問い合わせは、各機関にお願いいたします。

東京電力の迅速測定結果

【海水】

<9月19日公表>

【発電所から3km以内】

9月18日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点においてトリチウム濃度は検出下限値未満（6.7～7.6ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<9月18日公表>

【発電所から3km以内】

9月17日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点においてトリチウム濃度は検出下限値未満（5.4～7.8ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<9月17日公表>

【発電所から3km以内】

9月16日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点においてトリチウム濃度は検出下限値未満（6.7～7.6ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<9月16日公表>

【発電所から3km以内】

9月15日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点においてトリチウム濃度は検出下限値未満（5.5～7.8ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<9月15日公表>

【発電所から3km以内】

9月14日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点においてトリチウム濃度は検出下限値未満（6.5～7.5ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用

指標である 700 ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や 350 ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

また、9月4日に福島第一原子力発電所から 3km 以内 10 地点にて採取した海水で検出下限値を 0.4 に下げて実施した通常の分析について、6 地点の結果が出ましたのでお知らせします。

6 地点（放水口から 500～2,100m）のトリチウム濃度は、0.68～1.1 ベクレル/リットル※であり、当社の運用指標である 700 ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や 350 ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。なおその他の 4 地点（放水口から 200～1,600m）は、現在分析中であり、結果がわかり次第公表します。

※放射線環境影響評価において実施した海洋拡散シミュレーションの傾向と齟齬がないと考えております。

（海洋拡散シミュレーションの結果は[こちら](#)）

【発電所から 10km 四方内】

9月13日に福島第一原子力発電所から 10km 四方内 1 地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、トリチウム濃度は検出下限値未満（7.2 ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である 30 ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や 20 ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<9月14日公表>

【発電所から 3 km以内】

9月13日に福島第一原子力発電所から 3km 以内 10 地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点においてトリチウム濃度は検出下限値未満（5.9～7.2 ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である 700 ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や 350 ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

【発電所から 10km 四方内】

9月12日に福島第一原子力発電所から 10km 四方内 2 地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、トリチウム濃度はどちらの地点においても検出下限値未満（7.1 ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である 30 ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や 20 ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<9月13日公表>

【発電所から 3 km以内】

9月12日に福島第一原子力発電所から 3km 以内 10 地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点においてトリチウム濃度は検出下限値未満（7.0～7.8 ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である 700 ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や 350 ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

【発電所から 10km 四方内】

9月11日に福島第一原子力発電所から10km四方内1地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、トリチウム濃度は検出下限値未満（6.2ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である30ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や20ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<9月12日公表>

【発電所から3km以内】

9月11日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点においてトリチウム濃度は検出下限値未満（6.2～7.0ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<9月11日公表>

【発電所から3km以内】

9月10日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点においてトリチウム濃度は検出下限値未満（6.4～7.8ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<9月10日公表>

【発電所から3km以内】

9月9日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点においてトリチウム濃度は検出下限値未満（6.0～8.0ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

また、8月30日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水で検出下限値を0.4に下げた実施した通常の分析について、9月7日に6地点の結果を公表しましたが、残りの4地点の結果が出ましたのでお知らせします。

4地点のトリチウム濃度は、放水口からもっとも近い地点（放水口から約200mの地点）において、0.43ベクレル/リットル（検出下限値：0.33ベクレル/リットル）、その他の3地点（放水口から600～1,600m）において、検出下限値未満（0.31～0.32ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<9月9日公表>

【発電所から3km以内】

9月8日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点においてトリチウム濃度は検出下限値未満（5.9～7.4ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<9月8日公表>

【発電所から3km以内】

9月7日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点においてトリチウム濃度は検出下限値未満（5.3～8.7ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

【発電所から10km四方内】

9月6日に福島第一原子力発電所から10km四方内1地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、トリチウム濃度は検出下限値未満（7.1ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である30ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や20ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<9月7日公表>

【発電所から3km以内】

9月6日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点においてトリチウム濃度は検出下限値未満（6.2～7.1ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

また、8月30日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水で検出下限値を0.4に下げて実施した通常の分析について、6地点の結果が出ましたのでお知らせします。

6地点（放水口から500～2,100m）のトリチウム濃度は、1.0～1.5ベクレル/リットル※（検出下限値：0.34～0.37ベクレル/リットル）であり、当社の運用指標である700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。なおその他の4地点（放水口から200～1,600m）は、現在分析中であり、9月10日までに分析結果を得て、結果を公表する予定としています。

※放射線環境影響評価において実施した海洋拡散シミュレーションの傾向と齟齬がないと考えております。

（海洋拡散シミュレーションの結果は[こちら](#)）

<9月6日公表>

9月5日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点においてトリチウム濃度は検出下限値未満（6.5～7.8 ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<9月5日公表>

9月4日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点においてトリチウム濃度は検出下限値未満（5.9～7.3 ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<9月4日公表>

9月3日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点においてトリチウム濃度は検出下限値未満（5.8～6.8 ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<9月3日>

9月2日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、トリチウム濃度は検出下限値未満（6.8～8.2 ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<9月2日>

【発電所から3km内】

9月1日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、トリチウム濃度は検出下限値未満（7.0～7.4 ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

【発電所から10km四方内】

8月31日に福島第一原子力発電所から10km四方内1地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、トリチウム濃度は検出下限値未満（6.8ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である30ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や20ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<9月1日公表>

【発電所から3km以内】

8月31日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、トリチウム濃度は、放水口からもっとも近い地点（放水口から約200mの地点）において、10ベクレル/リットル[※]（検出下限値：8.6ベクレル/リットル）、その他の地点において、検出下限値未満（5.1～8.3ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

※当該海域は、海流の流れが数日おきに入れ替わることがあり、その海流の状況に応じて、数値に変動が生じるものと考えております。

なお8月24日に採取した海水で検出下限値を0.4に下げた通常の分析を実施したところ、放水口から最も近い地点（放水口から200m）において、トリチウム濃度が2.6ベクレル（検出下限値：0.34ベクレル/リットル）、その他の地点においては、検出下限値未満（0.32～0.35ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

【発電所から10km四方内】

8月30日に福島第一原子力発電所から10km四方内3地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、トリチウム濃度は検出下限値未満（7.6～7.7ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である30ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や20ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<8月31日公表>

8月30日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、トリチウム濃度は検出下限値未満（6.3～7.7ベクレル/リットル未満）であり、700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<8月30日公表>

8月29日に福島第一原子力発電所から3km以内2地点[※]にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、トリチウム濃度は検出下限値未満（5.9ベクレル/リットル未満）であり、700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

※8月29日は、海象の影響をふまえ、調査船の出航を中止し、陸側から試料採取できる2地点で試料採取を実施しました。

<8月29日公表>

8月28日に福島第一原子力発電所から3km以内2地点[※]にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、トリチウム濃度は検出下限値未満（7.3ベクレル/リットル未満）であり、700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

※8月28日は、海象の影響をふまえ、調査船の出航を中止し、陸側から試料採取できる2地点で試料採取を実施しました。

<8月28日公表>

8月27日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点において、トリチウム濃度は検出下限値未満（6.1～6.8ベクレル/リットル未満）であり、700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<8月27日公表>

8月26日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点において、トリチウム濃度は検出下限値未満（6.1～6.8ベクレル/リットル未満）であり、700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<8月26日公表>

8月25日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点において、トリチウム濃度は検出下限値未満（5.5～7.6ベクレル/リットル未満）であり、700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<8月25日公表>

8月24日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点において、トリチウム濃度は検出下限値未満（4.6～8.1ベクレル/リットル未満）であり、700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

環境省の迅速測定結果

【海水】

<9月11日公表>

9月5日～6日に福島県沿岸の9測点、宮城県沿岸の1測点、茨城県沿岸の1測点にて採取した海水試料を分析（迅速測定）した結果、すべての測点において、海水のトリチウム濃度は検出下限値未満（7～8 ベクレル/リットル未満）であり、人や環境への影響がないことを確認しました。（環境省）

<9月1日公表>

8月30日に福島県沖の11測点にて採取した海水試料を分析（迅速測定）した結果、すべての測点において、海水のトリチウム濃度は検出下限値未満（7～8 ベクレル/リットル未満）であり、人や環境への影響がないことを確認しました。（環境省）

<8月27日公表>

8月25日朝に福島県沖の11測点にて採取した海水試料を分析（迅速測定）した結果、すべての測点において、海水のトリチウム濃度は検出下限値未満（7～8 ベクレル/リットル未満）であり、人や環境への影響がないことを確認しました。（環境省）

水産庁の迅速測定結果

【水産物】

<9月19日公表>

9月18日朝にALPS処理水放出口の北側約4kmで採取されたヒラメ及び同放出口の南側5kmで採取されたホウボウのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満（約7.5、7.6ベクレル/kg未満）であることを確認しました。（水産庁）

<9月18日公表>

9月17日朝にALPS処理水放出口の北側約4kmで採取されたヒラメ及び同放出口の南側5kmで採取されたヒラメのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満（約7.8、7.7ベクレル/kg未満）であることを確認しました。（水産庁）

<9月17日公表>

9月16日朝にALPS処理水放出口の北側約4kmで採取されたヒラメ及び同放出口の南側5kmで採取されたヒラメのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満（約8.6、8.7ベクレル/kg未満）であることを確認しました。（水産庁）

<9月16日公表>

9月15日朝にALPS処理水放出口の北側約4kmで採取されたヒラメ及び同放出口の南側5kmで採取されたヒラメのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満（約8.4、8.6ベクレル/kg未満）であることを確認しました。（水産庁）

<9月15日公表>

9月14日朝にALPS処理水放出口の北側約4kmで採取されたヒラメ及び同放出口の南側5kmで採取されたヒラメのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満（約8.8、9.1ベクレル/kg未満）であることを確認しました。（水産庁）

<9月14日公表>

9月13日朝にALPS処理水放出口の北側約4kmで採取されたヒラメ及び同放出口の南側5kmで採取されたホウボウのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満（約7.3、7.5ベクレル/kg未満）であることを確認しました。（水産庁）

<9月13日公表>

9月12日朝にALPS処理水放出口の北側約4kmで採取されたヒラメ及び同放出口の南側5kmで採取されたヒラメのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満（約8.8、8.9ベクレル/kg未満）で

あることを確認しました。(水産庁)

<9月12日公表>

9月11日朝にALPS処理水放出口の北側約4kmで採取されたヒラメ及び同放出口の南側5kmで採取されたヒラメのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満(約7.5、7.6ベクレル/kg未満)であることを確認しました。(水産庁)

<9月11日公表>

台風の影響により、9月9日のサンプル採取(網の設置)が出来なかったため、11日の分析結果の公表はありません。(水産庁)

<9月8日公表>

9月7日朝にALPS処理水放出口の北側約4kmで採取されたヒラメ及び同放出口の南側5kmで採取されたヒラメのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満(約8.6ベクレル/kg未満)であることを確認しました。

なお、台風の影響により、昨日と本日の朝、網を設置していないため、明日9日と明後日10日の迅速分析結果の公表はありません。(水産庁)

<9月7日公表>

9月6日朝にALPS処理水放出口の北側約4kmで採取されたヒラメ及び同放出口の南側5kmで採取されたヒラメのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満(約8.9、8.7ベクレル/kg未満)であることを確認しました。(水産庁)

<9月5日公表>

9月4日朝にALPS処理水放出口の北側約4kmで採取されたヒラメ及び同放出口の南側5kmで採取されたヒラメのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満(約8ベクレル/kg未満)であることを確認しました。(水産庁)

<9月4日公表>

9月3日朝にALPS処理水放出口の北側約4kmで採取されたヒラメ及び同放出口の南側5kmで採取されたヒラメのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満(約8.2、8.1ベクレル/kg未満)であることを確認しました。(水産庁)

<9月3日公表>

9月2日朝にALPS処理水放出口の北側約4kmで採取されたヒラメ及び同放出口の南側5kmで採取されたマダイのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満（約8.3、8.5ベクレル/kg未満）であることを確認しました。（水産庁）

<9月2日公表>

9月1日朝にALPS処理水放出口の北側約4kmで採取されたヒラメ及び同放出口の南側5kmで採取されたヒラメのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満（約8.7ベクレル/kg未満）であることを確認しました。（水産庁）

<9月1日公表>

8月31日朝にALPS処理水放出口の北側約4kmで採取されたヒラメ及び同放出口の南側5kmで採取されたヒラメのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満（約8.5ベクレル/kg未満）であることを確認しました。（水産庁）

<8月31日公表>

8月30日朝にALPS処理水放出口の北側約4kmで採取されたヒラメ及び同放出口の南側約5kmで採取されたトラフグのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満（約8ベクレル/kg未満）であることを確認しました。（水産庁）

<8月29日公表>

台風10号の影響により、27日と28日にサンプルの採取が出来なかったため、29日と30日の結果報告はありません。（水産庁）

<8月28日公表>

8月27日朝にALPS処理水放出口の北側約4kmで採取されたヒラメ及び同放出口の南側約5kmで採取されたヒラメのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満（約8.6ベクレル/kg未満）であることを確認しました。（水産庁）

<8月27日公表>

8月26日朝にALPS処理水放出口の北側約4kmで採取されたホウボウ及び同放出口の南側約5kmで採取されたヒラメのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満（約8.8ベクレル/kg未満）であることを確認しました。（水産庁）

<8月26日公表>

8月25日朝にALPS処理水放出口の北側約4kmで採取されたヒラメ及び同放出口の南側約5kmで採取されたホ

ウボウのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満（8.1～8.2 ベクレル/kg 未満）であることを確認しました。（水産庁）

福島県の迅速測定結果

【海水】

<9月14日公表>

9月12日(火)採取：全9測点で検出下限値未満（3.4～4.0Bq/L未満）であり、人や環境への影響がないことを確認しました。（福島県）

<9月6日公表>

9月3日(日)採取：全9測点で検出下限値未満（3.8～4.4Bq/L未満）であり、人や環境への影響がないことを確認しました。（福島県）

<9月1日公表>

8月30日採取：全9測点で検出下限値未満（3.9～4.4Bq/L未満）であり、人や環境への影響がないことを確認しました。（福島県）

<8月27日公表>

8月25日に福島県沖の9測点にて採水した海水のトリチウム濃度は、迅速分析を実施した結果、すべての測点で検出下限値未満（3.7～4.1ベクレル/リットル未満）であり、人や環境への影響がないことを確認しました。（福島県）

【参考】海水のトリチウム濃度の比較



※1：原子力施設の放水口から出る水を、毎日、その濃度で約2ℓ飲み続けた場合、一年間で1ミリシーベルトの被ばくとなる濃度から定められた基準
 ※2：出典「日本の環境放射能と放射線」（期間：2019/4～2022/3）
 ※3：2023/8/23-8/31実績より